「名古屋市第6次一般廃棄物処理基本計画（案）」 に対する市民意見の内容及び市の考え方

「名古屋市第6次一般廃棄物処理基本計画（案）」に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見とそれに対する本市の考え方を公表いたします。

なお、ご意見の内容については、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文の一部を要約、分割するなどして掲載させていただきましたので、ご了承ください。

令和6年3月

<市民意見募集の概要>

●募集期間

令和6年1月4日（木）から2月2日（金）まで

●提出状況

提出者数：80人

提出方法：郵送（10人）、FAX（20人）、電子メール（47人）、持参（3人）

●意見の内訳 合計193件

第1部 ごみ処理基本計画

第1章 計画の策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・4件

第2章 本市のごみ処理・資源化を取り巻く状況と課題・・・・・・・・・・3件

第3章 本市のごみ処理・資源化の現状・・・・・・・・・・・・・・・・22件

第4章 計画の基本理念と目標値・・・・・・・・・・・・・・・・・・9件

第5章 「持続可能な循環型都市」の実現に向けた施策の展開・・・・・・・・147件

総論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（12件）

重点施策1 プラスチック資源循環の推進・・・・・・・・・・・・・・・・（17件）

重点施策2 食品ロスの削減／食品ロス削減推進計画・・・・・・・・・・（23件）

施策1 環境にやさしい学びと行動の推進・・・・・・・・・・・・（6件）

施策2 2R（リデュース・リユース）の推進・・・・・・・・・・・・（9件）

施策3 分別・リサイクルの推進・・・・・・・・・・・・・・・・（49件）

施策4 安心・安全で適正な収集・処理体制の確保・・・・・・・・・・（11件）

施策5 快適に住み続けられるまちづくり・・・・・・・・・・・・（20件）

第6章 計画の推進に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・2件

その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6件

名古屋市環境局ごみ減量部減量推進室

電話：052-972-2398

FAX：052-972-4133

電子メール：a2378@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

目次

第1部 ごみ処理基本計画

第1章 計画の策定にあたって	4件	1
第2章 本市のごみ処理・資源化を取り巻く状況と課題	3件	1
第3章 本市のごみ処理・資源化の現状	22件	2
第4章 計画の基本理念と目標値	9件	4
第5章 「持続可能な循環型都市」の実現に向けた施策の展開	147件	5
<総論>	12件	5
<重点施策1 プラスチック資源循環の推進>	17件	6
<重点施策2 食品ロスの削減／食品ロス削減推進計画>	23件	8
<施策1 環境にやさしい学びと行動の推進>	6件	10
<施策2 2R（リデュース・リユース）の推進>	9件	11
<施策3 分別・リサイクルの推進>	49件	12
<施策4 安心・安全で適正な収集・処理体制の確保>	11件	18
<施策5 快適に住み続けられるまちづくり>	20件	19
第6章 計画の推進に向けて	2件	22
その他	6件	23

第1章 計画の策定にあたって 4件

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 計画期間が長すぎるため、10年または7年にすべきである。 	<p>環境省の「ごみ処理基本計画策定指針」において、「計画の目標年次は原則として計画策定時より10～15年程度とし、必要に応じて中間目標年次を設ける」とされていることから、本計画は令和22（2040）年度までを計画期間とし、令和12（2030）年度と令和22（2040）年度の目標値を設定しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 技術革新に対応するためには、5年ごとではなく3年ごとの改定が必要なのではないか。 	<p>環境省の「ごみ処理基本計画策定指針」において、「概ね5年ごとに改定するほか、計画策定の前提となっている諸条件に大きな変動があった場合には見直しを行うことが適切である。」とされていることを踏まえ、適切な時期に本計画を改定したいと考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ごみ非常事態宣言は市のごみ減量の取り組みが不十分だったことが原因であることを認識すべきである。また、ごみ非常事態宣言に至るまでの背景を知らない職員が増えているため、当時の状況をしっかりと引き継いでいく必要がある。 	<p>ごみ非常事態宣言から25年が経過し、宣言に至るまでの背景やその当時の取り組みを経験した職員も少なくなっているため、当時の状況をしっかりと引き継ぐとともに、職員の育成に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> この計画が実現すれば素晴らしいと思う。 	<p>持続可能な循環型都市の実現に向け、市民・事業者の皆様とのパートナーシップにより、施策を展開してまいります。</p>

第2章 本市のごみ処理・資源化を取り巻く状況と課題 3件

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 地震や風水害などの災害への対応を具体的に記載してほしい。 	<p>大規模地震や風水害の発生時については、「名古屋市災害廃棄物処理計画」に基づき、災害廃棄物を適正かつ円滑な処理を実施し、早期の復旧・復興を目指します。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・災害廃棄物は既存の処理施設の余力で処理し、不足する場合は仮設焼却炉で処理することを明記すべきである。 	<p>災害廃棄物処理の具体的な内容については、「名古屋市災害廃棄物処理計画」で定めております。その中で、「災害がれきの処理においては、可能な限り選別を行い、再利用、再資源化を進めることで処理・処分量を削減する。」「災害がれき（可燃物）は、選別処理等の後に本市焼却工場での処理することを原則とするが、既設焼却工場のみで処理が困難な場合に仮設焼却炉を設置する。」と記載しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量の削減目標は、国の目標だけでなく名古屋市の目標も記載すべきである。 	<p>ご意見を踏まえ、P13 及び P27 に本市の温室効果ガス排出量の削減目標を記載しました。</p>

第3章 本市のごみ処理・資源化の現状 22件

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理量などが減少していることは良いことである。(2件) 	<p>本市の総排出量、ごみ処理量、埋立量は減少傾向が続いておりますが、引き続き本計画で掲げる目標を達成できるよう取り組みを進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理量が減少しているのに、なぜ資源分別量も減少しているのか。 	<p>資源分別率が高い新聞・雑誌の発生量が減少していることなどにより、資源分別量が減少しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・横ばい傾向にあった事業系ごみが増加している時期があるが、考えられる要因があれば教えてほしい。 	<p>令和元年度の事業系ごみの増加については、生ごみ資源化施設が稼働停止したため、事業系生ごみを焼却工場での処理したことが主な要因です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生ごみ堆肥化や草木類収集の実証実験による資源化量は資源分別率の算出に含まれているのか。 	<p>資源分別率は、現状本市が資源として区分しているものを対象としているため、自主的な生ごみ堆肥化や実証実験における資源化量は、資源分別率の算出に含めておりません。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの資源分別率はピーク時から低下しているため、資源分別率を向上させていく必要がある。 	<p>ペットボトルの資源分別率については、高い水準を維持しておりますが、引き続き数値の維持・向上に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・空き缶の資源分別率は85～88%と横ばいで推移しているため、資源分別率を向上させていく必要がある。 	<p>空き缶の資源分別率については、高い水準を維持しておりますが、引き続き数値の維持・向上に努めてまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの配色の意味合いが統一されていないため分かりにくい。 	<p>各グラフともに分かりやすいよう凡例を記載しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・品目別の資源分別率の推移や資源のゆくえは重要な情報であるため、積極的に周知してほしい。 	<p>「名古屋ごみレポート」等において、品目別の資源分別率の推移や資源のゆくえを公表してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・P20「ごみ処理の仕組み」にガス化溶融の説明を記載すべきである。 	<p>P20「ごみ処理の仕組み」は、ごみ処理の流れを図にしてお示したものです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・P24「ごみ処理施設の概要」に広域処分場である衣浦港 3 号地廃棄物最終処分場を追加、埋立処分場それぞれの残余容量、残余年数を記載すべきである。 	<p>P24「ごみ処理施設の概要」は、本市施設の概要をお示したものです。なお、残余容量は記載しておりますが、残余年数については、外部的要因により埋立量の変動が予測されることから、記載しておりません。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・溶融スラグの利用先や民間の溶融処理施設の住所や能力などを記載すべきである。 	<p>溶融スラグや灰の資源化量は記載しておりますが、施設については、本市施設のみ記載しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・焼却とガス化溶融に伴う二酸化炭素排出量をそれぞれ記載すべきである。 	<p>ごみ処理事業における温室効果ガス排出量は、ごみ焼却に伴う温室効果ガスが大半であることから、「ごみの焼却」と「車両・設備稼働」で区分しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・灰の資源化に伴う二酸化炭素排出量を記載すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量も大切であるが、焼却時に発生する熱エネルギーも確保していく必要がある。 	<p>焼却工場で発生する熱エネルギーについては、発電や給湯などに有効利用しており、より多くの熱エネルギーを回収できる設備の導入などに努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ・資源の排出量が減少する一方で、収集処理経費は増加傾向にあるが、経費削減などの取り組みは行っているのか。 	<p>収集処理体制の効率化などにより、経費の圧縮に努めております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者などへの排出支援にかかる経費は記載しないのか。 	<p>通常の収集と合わせて収集を行っているため、排出支援（なごやか収集）のみの経費を計上することは困難です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・P28「ごみ・資源の処理原価」は収集と処理で分けるとともに、令和 4 年度実績だけではなく過去の推移も記載すべきである。 	<p>「名古屋ごみレポート」や「環境局事業概要」などにおいて、ごみ処理・資源化事業に伴う経費を公表してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ・資源の処理原価の算出方法が分かるように対象になっている経費や売却による収入などを記載すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ・資源の処理原価が増減した理由を前計画と比較して記載すべきである。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・保健環境委員の人数の推移を記載してほしい。 	<p>今後の参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前計画の総括があるのは、非常に真面目に取り組んでいる姿勢を示しており、今後も続けてほしい。 	

第4章 計画の基本理念と目標値 9件

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルを基本理念で打ち出し、カーボンニュートラルの目標を設定すべきである。 	<p>本計画は、脱炭素社会の実現に向けた動きなどの社会経済情勢の変化を踏まえ、策定しました。</p> <p>なお、温室効果ガス排出量の削減目標は、「名古屋市地球温暖化対策実行計画 2030」で設定しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・経済の状況などにより、ごみ・資源の排出量は変動するため、実績だけではなく要因を分析していく必要がある。 	<p>ごみ・資源の潜在排出量は、P34の増減要素に基づき、これまでの排出量の実績と今後の見込みを踏まえて推計しております。</p> <p>今後ごみ処理量などの変動について、要因を分析してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系の潜在排出量の具体的な算出方法を記載すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業系の潜在排出量の具体的な算出方法を記載すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が想定される中、令和22(2040)年度の目標値は控えめに感じるが、増加が懸念される要因があるのか。 	<p>2章でお示しした社会経済情勢の変化に加え、これまでの排出量や資源分別率の推移、国の目標などを踏まえ目標値を設定しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市の人口は減少見込みであるため、資源分別量の目標値はもっと低く設定した方が良いと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で事業系ごみが減少しているため、将来的に事業系ごみが増加する計画と増加を想定しない計画の両方が必要である。 	<p>事業系ごみは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少しておりますが、社会経済活動の正常化により潜在排出量の増加を見込んでおります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理量などの指標は、人口動態の影響を受けるため、一人あたりの排出量が重要だと思う。 	<p>一人あたりの排出量も重要な指標であると考えております。本計画で目標設定した指標だけでなく、一人あたりの排出量についても注視してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定の期間が長いため、現在行われている施策の効果が分からない。 	<p>「名古屋ごみレポート」等において、目標値の達成状況や施策の進捗状況を公表してまいります。</p>

第5章 「持続可能な循環型都市」の実現に向けた施策の展開 147件

<総論 12件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 重点施策を効果的に実施するとともに、基本的な施策も進めていく必要があると思う。(2件) 	<p>「プラスチック資源循環の推進」と「食品ロスの削減」を重点的に展開するとともに、5つの基本的な施策を推進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 重点施策は地球を守っていく上で重要なことである。 	
<ul style="list-style-type: none"> 家庭系ごみには生ごみとプラスチックが多く含まれているため、対策を進めていく必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の具体例をそれぞれ示せば、3Rが進むと思う。 	<p>3Rの広報・啓発の際には言葉の意味や取り組み内容だけでなく、その意義や具体的な方法についても分かりやすく説明するよう努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ごみ・資源の発生抑制を進めるためには、指定袋の値上げや、資源を持ち込んだらポイントが付与される場所を設置するなど、インセンティブが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 計画の内容を市民に浸透させ、実行に移してもらうことは難しいと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 「基本的な施策」を市民に浸透させるための取り組みが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するためには、施策の性格に応じて適切に対応していく必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するためには、対策だけでなく市からのメッセージを伝えることが必要である。 	<p>それぞれの施策に応じて適切に対応してまいります。</p> <p>広報にあたっては、施策の意義等についても伝えてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地域社会全体で協力・連携しながら、共通の目標に向けて取り組むことが重要である。 	<p>市民・事業者の皆様とのパートナーシップにより、本計画に掲げる目標を達成できるよう、取り組みを推進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 社会経済情勢の変化に伴い、柔軟かつ長期的に対策を講じていく必要がある。 	<p>長期的な視点を持った上で、社会経済情勢の変化に柔軟に対応してまいります。</p>

<重点施策1 プラスチック資源循環の推進 17件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> プラスチック資源循環を推進していくためには、「減らす」、「大切に使う」、「循環させる」、「置き換える」ことが重要だと思う。 	<p>まずは「減らす」ことを最優先とし、どうしても必要なプラスチックは「大切に使う」、「循環させる」、「置き換える」ことにより、持続可能なプラスチック利用の実現を目指してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 「Action3 循環させる」に焦点を当てたことは良いことだと思う。 	<p>使い終わったプラスチックをリサイクルすることは、限りある天然資源の節約などにつながることから、循環させる取り組みを進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 海洋汚染を防ぐために、マイクロプラスチックの流出による悪影響を具体的に記載すべきである。 	<p>マイクロプラスチックによる有害物質の吸着及び生物への移行についての調査・研究結果から、人体に危険な影響を与える可能性については認識していますが、実際どのような影響が現れるかについては研究途上とも認識しており、過度に不安を煽ることにはならないよう、慎重に伝えてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 藤前干潟で確認されたレジンペレットは、発生源がプラスチック成型事業者やペレット輸送過程などはっきりしており、国や業界団体が取り組みを進めるとともに流出したペレットが引き起こす影響についても研究が進んでいる。レジンペレットの流出原因や環境中での特徴などを詳細に記載すべきである。 	<p>本市が実施した藤前干潟のプラスチックごみ調査において、ごみの大半を容器包装類が占めていることや、多数かつ多種類のマイクロプラスチックが存在していることが判明しました。本市としましては、このような状況を市民の皆様伝えていくとともに、街中や藤前干潟の美化活動を関係団体や事業者の皆様と連携しながら進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 藤前干潟の調査で多く確認された徐放性肥料の殻について、どうしてこのように広く使用されているのか、国や農業関係団体などが問題をどのように捉えて動き始めているのかを記載すべきである。 	<p>徐放性肥料については、肥料の散布回数を減らすことで農家の方々の負担軽減に大きく寄与している一方で、使用後の殻が環境中に滞留し、他のマイクロプラスチックと同様に様々な影響を引き起こす可能性があるものと認識しております。現在、国や関係団体において対策が進められていますが、本市としても国や県、また本市関係部署とも連携を図りながら漂着ごみ問題に取り組み、藤前干潟の保全に関係の深い施設や市民団体とも協力し、より効果的な周知・啓発について検討してまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックを削減するためには、事業者と消費者の双方の取り組みが必要である。 	<p>消費者・事業者との協働の場である2R推進実行委員会による取り組みのほか、事業者の持つ仕組みやアイデアを活用し、リデュースやリユースへと行動変容を促す仕組みづくりを進めております。新たなビジネスモデルを支援することで、循環型社会へとつながる消費行動を促してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・マイボトルやマイカップの利用にインセンティブがあれば、利用者が増えると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園などでのマイボトル・マイカップの利用は、教員の負担に繋がる可能性があるため、自分で洗浄できるような教育が必要である。 	<p>リデュースの取り組みとして、マイボトル・マイカップの利用を促進する普及啓発を進めております。マイボトルの利用やそのほかのリデュースの取り組みについても無理なく継続的に行えるよう啓発を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック資源の一括収集は大変良い取り組みだと思う。(2件) 	<p>令和6年4月からプラスチックの分別区分を変更し、これまで可燃ごみとして収集していたプラスチック製品のうち、プラスチックのみでできたものについては、従来のプラスチック製容器包装と合わせてまとめて「プラスチック資源」として収集し、より一層のごみの減量と資源の循環利用を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック資源循環の推進を重点施策に設定しているが、プラスチック製容器包装以外のプラスチックも資源になるのか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック製容器包装とプラスチック製品を一緒に再商品化することは大変良いと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック資源の一括収集は、市民にとっても行政にとっても大変なことであることを認識するとともに、どのようなものが危険物か分かるように広報してほしい。 	<p>令和6年3月上旬に全戸配布したチラシや、主に若年層をターゲットにした動画などにおいて、分別区分変更の内容や注意点についてお示ししておりますが、今後も分かりやすい広報に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック資源の一括収集は、危険物の混入を防ぐことが課題である。 	<p>モバイルバッテリーやハンディファンなどの発火の危険があるものの混入を防ぐため、チラシの全戸配布や動画の配信などにより、周知に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみに含まれるプラスチック製容器包装のリサイクルを進めてほしい。 	<p>事業系ごみに含まれるプラスチックについては、令和5年度に新たに作成した事業系ごみ減量・資源化ガイドを活用するなど、立入調査等を通じて発生抑制や適正排出、資源化に向けた指導を強化します。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスプラスチックの普及に伴い、原料となるサトウキビなどが高騰しないか心配である。 	<p>代替素材への置き換えは、バイオマス原料としての利用と食料供給との競合も含め、その製品が訴える「環境配慮」がどういった効果があるものなのかを見極める必要があると考えております。今後も国や業界団体の動向を踏まえながら、分かりやすい啓発に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ指定袋へのバイオマスプラスチックの導入は大変良い案だと思う。 	<p>可燃ごみ指定袋へのバイオマスプラスチックの導入について、環境への負荷低減効果やコストなど、利点と課題を情報発信しながら促進してまいります。</p>

<重点施策2 食品ロスの削減／食品ロス削減推進計画 23件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスに関する話はあまり聞いたことがなかったので、食品ロスに着目して計画を進めていくことは良いことだと思う。 	<p>食品ロスを削減するためには、市民・事業者・行政がそれぞれの立場で主体的に取り組み、社会全体として対応していけるよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成と定着を図っていくことが重要であると考えております。</p> <p>それらを踏まえて、引き続き名古屋市全体の食品ロスの削減を目指して進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業系食品ロスの発生原因は近年の値上げによるものが大きいと考えるため、国に対して経済状況の改善を要望すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス発生量は減少しているため、今までの本市の取り組みは間違っていなかったと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業系食品ロス量は横ばいの状況であるため、減少していくと良いと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス削減目標値は現実的であり、達成できると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスを削減するためには、消費段階の前と後で分けて考える必要がある。 	<p>食品ロスは、食品のライフサイクルの中のあらゆる段階で発生していることから、事業者及び消費者に向けた食品ロス削減に関する周知・啓発を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブを本市で実施するのであれば、参加してみたいと思う。 	<p>環境学習センター（エコパルなごや）やなごや生物多様性センターなどの市施設に常設のフードドライブ拠点を設置しております。また、民間による自主的な取り組みを支援してまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・フードシェアリングサービスは知らない人が多いと思うので、市として宣伝した方が良いと思う。 	<p>市民に向けて、フードシェアリングサービスの活用に向けた啓発を実施してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスを削減するために、廃棄予定の商品を安く提供する場所を作ってほしい。 	<p>フードシェアリングサービスの活用を事業者呼びかけるとともに、食品ロス削減の仕組みやアイデアを持つ事業者を募集し、市民に実践・体験してもらう実証実験などを支援してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・販売店で廃棄されそうな食品などを市が引き取り、生活に困っている方へ提供する取り組みを行ってはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・消費期限が切れそうな商品などを市が回収し、必要な方に届ける取り組みをしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しが生ごみにどの程度含まれているか数値化できると良いと思う。 	<p>生ごみに占める食品ロスの割合については、P55に記載しております。今後も「ごみ組成分析」により、食品ロス発生量や組成実態を把握するとともに、組成の傾向や変化要因を分析することで、より効果的な施策を検討してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス発生量を市民に周知すれば、食品ロス削減行動を促進することができると思う。 	<p>ごみ組成分析の結果等について、市民に向け公表をすることで、食品ロス削減意識の向上を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスを削減するためには、市民への行動の呼びかけや環境教育の推進といった長期的な対策のみでなく、短期的に効果が出るような具体的な対策が必要である。 	<p>各家庭でできる取り組みや食品ロス削減につながる購買行動について、イベントやキャンペーンを通じて繰り返し呼びかけていくとともに、様々な世代に向けて食品ロス削減に関する環境教育を粘り強く実施してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスを削減するために「もったいない」を心掛けるよう広報してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスを削減するために、値段を安くして売ってほしい。 	<p>市民に向けた買い物時における「季節商品の予約販売」利用の周知や、事業者に向けた食品ロス削減に関する周知を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「てまえどり」を普及させるためには、消費期限の残りが少ない商品の値下げが有効である。 	<p>引き続き「てまえどり」などの購買行動を周知してまいります。また、商慣習の見直し「販売期限延長」について事業者と連携した取り組みなどを検討してまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・学校の給食などを食べ残さないことは重要だと思うが、個人差があるため配慮が必要である。 	<p>市民による食品ロス削減行動については、各家庭や各個人ごとに状況が異なるため、各々が可能な範囲で食品ロス削減に取り組むことが必要であると考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢になると食べられる量が少なくなるため、少量のメニューや製品を作ってほしい。 ・食べ残しに対して追加料金を支払ってもらおう、といった方法を飲食店に推奨すると良いと思う。 	<p>飲食店に向けて、少量メニューの提供や料理の持ち帰り対応などの取り組みを周知してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食べ放題のお店では多くの食品ロスが発生しているため、規制が必要である。 	<p>市民に向けて、飲食店における適量注文や、料理の持ち帰りなどを呼びかけてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食品の販売期限延長は、食品ロス削減に効果的である。 ・食品ロスを削減するためには、事業者が値下げするとともに、行政として食品ロス削減の普及啓発をする必要がある。 	<p>食品ロス削減に向けた普及啓発を行うとともに、商慣習の見直し「販売期限延長」について事業者と連携した取り組みなどを検討してまいります。</p>

<施策1 環境にやさしい学びと行動の推進 6件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生に環境学習を行えば、親の意識も向上すると思う。(2件) 	<p>「環境学習センター（エコパルなごや）」での展示設備などを利用した環境学習及び体験型プログラムの実施や小学4年生社会科副教材として作成する「ごみと資源とわたしたち」の配付を行うとともに、3Rについて分かりやすく伝える出前講座等を実施しております。</p> <p>今後も子どもの頃からごみと資源の処理状況を理解し、3Rに取り組む知識を身に付け、実践につなげていけるよう促してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期の環境教育が環境にやさしい行動につながるため、環境学習を推進してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で名古屋市のごみと資源についてなど、学ぶ機会を設けてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量のメリットを教育の場でより広く周知してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市が主体となって対策を行うことで、市民・事業者の意識が変わるのではないかと思う。 	

<施策2 2R（リデュース・リユース）の推進 9件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量を進めるには、市民の取り組みだけではなく、事業者の取り組みが必要である。 	<p>消費者・事業者との協働の場である2R推進実行委員会による取り組みのほか、事業者の持つ仕組みやアイデアを活用し、リデュースやリユースへと行動変容を促す枠組みづくりを進めております。今後も新たなビジネスモデルを支援することで、循環型社会へとつながる消費行動を促してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市が事業者と連携したキャンペーンを実施することで市民への啓発になると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・使い捨て・過剰包装のライフスタイル・ビジネススタイルを転換することは大切だと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・量り売りは浸透していないと思うので、浸透させるための取り組みが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋の有料化について、値上げを検討すべきである。 	<p>本市が事務局である2R推進実行委員会では、全国に先駆けレジ袋有料化を実施し、令和2年7月からは全国でレジ袋有料化が開始されたところですが、有料化するレジ袋の価格については、各事業者により定められております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業者と連携してフードシェアリングやフードドライブ、子ども服などのリユースを進めてほしい。 	<p>フードシェアリングサービスの活用を事業者に向けて呼びかけるとともに、フードドライブについては市の常設拠点における実施のほか、民間による自主的な取り組みを支援してまいります。</p> <p>また、事業者と連携し、子ども服を含む衣類のリユース・リサイクルを推進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみとして出された粗大ごみなどを修理して再利用すれば、ごみの削減につながると思う。 	<p>粗大ごみとして収集した家具類を南リサイクルプラザにて清掃し、フリマアプリなどを活用して販売を行っております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・リユース品を持ち込みできる施設を増やしてほしい。 	<p>令和5年度は、実証実験として南リサイクルプラザにリユース可能な家具等をお持ち込みいただく事業を実施しました。本事業は、自動車で来場する方がほとんどであり、場内で自動車を誘導できる敷地が必要となります。また、持ち込まれた家具等を保管し展示する施設も必要となります。以上のことから、当面は南リサイクルプラザでの実施を予定しております。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・増加傾向にある段ボールやプラスチックを再利用し、災害時に活用できる簡易ベッドやパーテーションなどを作ってほしい。 	<p>段ボールやプラスチックなど、増加傾向にあるものを再利用し有効に活用するため、アップサイクルの普及啓発に努めてまいります。</p>
---	---

<施策3 分別・リサイクルの推進 49件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・雑がみは多くがごみに含まれているため、分別・リサイクルを進めるよう広報してほしい。 	<p>ごみ減量を推進するため、「分かりやすい・分けやすい」分別区分の観点から、令和5年4月より紙製容器包装と雑がみを一緒に市の資源収集の日にお出しいただけるようになりました。引き続き紙製容器包装・雑がみの収集についての広報を継続し、ごみ減量・資源化の推進に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・雑がみの資源分別率は10%程度であり、資源分別率を向上させていく必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・紙製容器包装と雑がみの一括収集が円滑に進むよう、リサイクルできない紙類を例示してほしい。 	<p>紙製容器包装・雑がみの収集にお出しいただけない紙類はウェブサイトやチラシなどで例示しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・紙製容器包装と雑がみの一括収集は、ステーション収集から各戸収集に変更すれば、資源分別率が向上すると思う。 	<p>資源の各戸収集につきましては、保健環境委員や町内会の皆様に掛かる負担の軽減や市民一人ひとりの分別意識への影響などを考慮しながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の進展により、古紙が減少しているため、紙の資源分別率の目標を達成するためには、リサイクル困難な紙類のリサイクルも進めていく必要がある。 	<p>古紙業界、製紙業界と情報共有をし、資源化困難な紙類についての扱いも注視してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルのキャップが付いたままで排出されていることが多いため、プラスチック資源を広報する際はペットボトルのキャップのイラストを入れてほしい。 	<p>令和6年4月から区分変更するプラスチック資源の周知ちらし、ごみ減量・資源化ガイド、市公式ウェブサイト等にペットボトル等のキャップ（フタ）の出し方について案内しております。今後も引き続き、ペットボトルのキャップやラベルの出し方についても周知を行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルのラベルやキャップが取られずに出されていることが多い。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ・資源の分別区分をあまり変更しないでほしい。 	<p>分別区分変更は、市民の皆様のご生活に大きく影響するものと認識しております。今後も変更する場合は分かりやすい広報に努めてまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 資源のステーション収集を各戸収集に変更すれば、責任を持って排出すると思う。各戸収集に変更する場合、プラスチック資源以外は収集頻度を減らしても良い。 	<p>資源の各戸収集につきましては、保健環境委員や町内会の皆様に掛かる負担の軽減や市民一人ひとりの分別意識への影響などを考慮しながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 資源分別率を向上するためには、ステーション収集から各戸収集への変更など利便性を向上させる必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 分別排出を推進するためには、分かりやすい分別ルールへの変更や分別の目的の周知などを行うことが必要である。 	<p>今後も「分かりやすい・分けやすい」分別区分について検討していくほか、3Rの広報・啓発の際には言葉の意味や取り組み内容だけでなく、その意義や具体的な方法についても分かりやすく説明するよう努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 分別意識を向上させるためには、デジタルでの広報のほか、アナログの広報も必要である。 	<p>3Rの広報・啓発の際には言葉の意味や取り組み内容だけでなく、その意義や具体的な方法についても分かりやすく説明するよう努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ごみ減量の普及啓発を強化し、市民の意識改革を促進する必要がある。 	<p>また、分別ルールなどの周知については、若年層や学生、外国人、高齢者、転入者等、ターゲットの属性に応じて、チラシ等の紙媒体、講座・環境デーなごやなどの対面、デジタルツールを使い分け、多様な手段による効果的な広報を行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> インターネットなどを利用し、リサイクルの重要性を周知することが必要である。 	<p>特に若年層に対しては、資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」、名古屋市公式LINE及び動画配信等のデジタルツールによる周知や、大学祭等における対面での周知などによる広報を実施することで適正排出を促進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ごみ減量・資源化ガイドを全戸配付しても分別が徹底されていないのが現状であり、関心が低い若年層への周知が課題である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 若年層にごみ・資源の分別の大切さを伝えていくことが必要である。 	<p>令和5年度に新たに作成した「やさしい日本語版」のごみ減量・資源化ガイドを活用するなど、より伝わりやすく理解しやすい広報を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 町内会の回覧や広報なごやでごみ削減の啓発を粘り強く継続していくことが必要だと思う。 	<p>外国人に対する分別方法の周知は、イラスト等を活用したごみ減量・資源化ガイド（やさしい日本語版・外国語版）を作成して対応しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 日本語でやさしい表現で広報すれば、高齢者の理解が進むと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 外国人に分かりやすくするために排出場所における分別区分の掲示は絵で示した方が良い。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市の分別・排出ルールは複雑であるため、転入者や外国人には分別が難しく、資源ステーションの場所を知らない方が多いのではないかと。 	<p>転入者には、区役所・支所でのごみ減量・資源化ガイドの配付・配架等や、管理会社等を通じた入居者への周知を行うとともに、外国人には、日本語学校での分別講習会の実施などの周知活動を行っております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人や市外からの転入者に対して、区役所で分別ルールに関する講習を行ってほしい。 	<p>また、資源ステーションの場所については、地域の方や各区の環境事業所にお問い合わせいただくよう上記ガイド等で案内しているほか、各区の分別推進員により分別排出が徹底されていない資源ステーションや共同住宅での分別指導などを行っております。</p> <p>今後も多様な手段による効果的な広報を実施することで適正排出を促進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市外からの転入者や町内会に加入していない方が分別をしていないことが多いと思う。 	<p>「名古屋市共同住宅等ごみ・資源分別推進連絡調整協議会」に加盟する管理会社に対して、資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の周知を依頼しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の二次元コードを集合住宅で掲示するなどし、若年層に周知した方が良いと思う。 	<p>資源ステーションの場所については、不法投棄や資源持去り防止の観点から公表せず、地域の方や各区の環境事業所にお問い合わせいただいております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」で資源ステーションの場所が分かるようにしてほしい。 	<p>家庭系ごみ、事業系ごみともに、ごみの中に多くの資源が含まれていることから、今後も分別・リサイクルに取り組んでまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系ごみ、事業系ごみとともに、さらに資源化できると思う。 	<p>資源分別方法について、ごみ減量・資源化ガイド等による広報の他にも、様々な機会を捉えて広報してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルのラベルやフタ、衣類を資源に出すようもっと広報してほしい。 	<p>引き続き、地域の皆様との協働や分別推進員の活用による資源ステーションの適正管理に努めてまいります。</p> <p>また、ターゲットの属性に応じた多様な手段による効果的な広報を実施することで適正排出を促進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・資源の収集後に行っている資源ステーションの巡回は経費が掛かるため、適正排出に向けた対策が必要である。 	<p>引き続き、ごみ・資源の出し場所、出し方について、市公式ウェブサイト、ごみ減量・資源化ガイド等で周知を行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各戸収集のプラスチック製容器包装や不燃ごみが資源ステーションに出されることがある。 	<p>引き続き、ごみ・資源の出し場所、出し方について、市公式ウェブサイト、ごみ減量・資源化ガイド等で周知を行ってまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅は一戸建よりも分別ルールが守られていないことが多いため、指導をお願いしたい。(2件) 	<p>分別排出が徹底されていない物件に対しては、管理者と連携し、入居者へのごみ出しに関する周知や集積場所の適切な管理を図っております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・個人で管理している集合住宅にも管理会社と同様に排出指導してほしい。 	<p>また、民間の住宅管理会社等と「名古屋市共同住宅等ごみ・資源分別推進連絡調整協議会」を組織し、入居者に対する広報・啓発・排出指導などの取り組みを共同で実施しております。</p> <p>今後も引き続き管理者への働きかけを粘り強く行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・保健環境委員の高齢化と成り手不足対策として、スマホの利活用を考えてほしい。 	<p>保健環境委員の成り手不足への対応としましては、委員の負担が軽減されるよう活動内容を見直すとともに、活動の周知のため、本市広報媒体を用いた活動紹介をしております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・価値観・コミュニティの多様化に伴い、保健環境委員制度の廃止・統合を検討してほしい。 	<p>保健環境委員の皆様にご負担いただく役割は時代とともに変化してきており、それぞれの時代に合った活動によって、本市の公衆衛生活動に多大なる貢献をいただってきたところです。</p> <p>今後も引き続き、保健環境委員の制度・活動等につきましては、時代に合った活動ができるよう、名古屋市保健環境委員会と協議し、持続可能な制度としてまいりたいと考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみのうち、資源化可能な紙類、生ごみがそれぞれ約2割を占めていることから、徹底した指導が必要である。 	<p>資源化可能な紙類及び生ごみについては、目標とする資源分別率の達成に向けて、令和5年度に新たに作成した事業系ごみ減量・資源化ガイドを活用するなど、立入調査等を通じて発生抑制や適正排出、資源化に向けた指導を強化します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック製容器包装と紙製容器包装・雑がみの資源分別率を向上させるため、事業系も含め明確な方向性を示してほしい。 	<p>家庭から排出されるごみ・資源については、「分かりやすい・分けやすい」分別区分の観点から、紙製容器包装と雑がみの一括収集、プラスチック資源の一括収集などを進めております。</p> <p>事業系ごみについては、古紙の分別・資源化の徹底に向けて、令和5年度に新たに作成した事業系ごみ減量・資源化ガイドを活用するなど、事業所への立入調査による指導や啓発などに努めてまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中小事業所の総排出量を記載し、事業系廃棄物減量計画書に基づく指導の有効性を確認してほしい。 	<p>中小事業所への訪問などを通じて実態の把握に努め、啓発指導に生かしてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が市収集と自主回収のどちらを優先したいのかわからない。 	<p>市収集と自主回収のどちらにでも出せる品目については、利用しやすい方にお出しいただければと考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無人回収所の増加などにより、集団資源回収の回収量が減少しているため、集団資源回収の利用を促す広報が必要である。 	<p>集団資源回収は、市民、事業者、行政の協働により古紙市況が低迷していた時代でも安定的に実施された「ごみ減量」の中心的な活動であり、本市として守っていくべきものと認識しております。</p> <p>今後も古紙業界と情報共有を行うとともに、無人回収所に対して、地域の集団資源回収を優先する旨の看板を設置するよう協力をお願いしてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化の進行に伴い、集団資源回収は各戸収集への移行が求められているため、市民団体だけではなく古紙回収業者への支援も検討してほしい。 	<p>集団資源回収システムを維持するため、古紙回収にかかる人件費、燃料費、古紙発生量等を考慮して、引き続き適切な事業協力金及び業者補助金の単価設定を行い、集団資源回収を支援してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 段ボールは資源指定袋に入れなくても回収してほしい。 	<p>本市では、段ボールなどの古紙類は子ども会や町内会、学区などが実施する集団資源回収をご利用いただいております。集団資源回収をご利用の際は、段ボールなどはひもでしばってお出してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ缶の持ち去りを防止する条例を作してほしい。 	<p>アルミ缶の持ち去りを防止する条例を制定する場合は、持ち去り行為を一律に規制せざるをえないことや実効性の確保など、様々な課題があると認識しております。したがって、本市の持ち去り状況の把握と他都市の運用状況調査を行いつつ、まずは条例によらない有効な持ち去り対策の検討をし、効果検証をしてまいりたいと考えております。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶の持ち去りを防止するためには、アルミ缶をステーション収集から各戸収集への変更や、集団資源回収への誘導が必要である。 	<p>資源の各戸収集につきましては、保健環境委員や町内会の皆様に掛かる負担の軽減や市民一人ひとりの分別意識への影響などを考慮しながら検討を進めてまいります。合わせて、持ち去りに有効な対策の検討も進めているところでございます。</p> <p>また、集団資源回収においてアルミ缶を回収することは持ち去り対策としても有効と考えておりますので、集団資源回収を利用するように市民の皆様へ働きかけてまいりたいと考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小型家電の拠点回収は周知が進んでいないため、回収量やリサイクルルートなどを記載すべきである。また、小型家電の回収による効果を示すなど、広報に力を入れる必要がある。 	<p>小型家電リサイクルについては、本市公式ウェブサイト、ごみ減量・資源化ガイドへの掲載やチラシの配布などにより広報を行っております。引き続き、制度についての市民の皆様への理解が深まるよう効果的な広報に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみは家の庭に埋めれば堆肥化することができる。 	<p>段ボールコンポストを使った生ごみ堆肥化講座などを開催するとともに、生ごみ資源化の活動に取り組む団体に対して活動の助成を行っております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・草木類のリサイクルは実証実験結果を踏まえ、実施してほしい。 	<p>草木類のリサイクルについては、実証実験の結果を踏まえ、令和6年度以降の本格実施に向けて進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・草木類のリサイクルは、「本格実施に向けた検討を進める」と記載してあるが、なぜ「実施する」と言えないのか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の分別意識の向上だけでは限界があるため、分別区分を減らして収集後に最新技術を活用し選別することを検討してほしい。 	<p>今後もリサイクル処理に関する最新技術の情報収集などに努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル可能な資源の収集・処理能力を高める必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・カイロはリサイクルできると聞いたことがあるため、カイロのリサイクルを検討してほしい。 	<p>現在、本市では使い捨てカイロを不燃ごみとして処理しておりますが、今後も資源化にかかる技術向上等の動向を注視してまいります。</p>

<施策4 安心・安全で適正な収集・処理体制の確保 11件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行により、資源ステーションに資源を持ち出すことが困難な方が増加しているため、各戸収集や地域役員などを活用した排出支援の検討が必要である。 	<p>高齢者など資源やごみを所定の排出場所まで持ち出すことが困難な方々を対象に、原則自宅の玄関前に出された資源やごみを市が収集に伺う「なごやか収集」という排出支援を行っております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・遺品整理に伴い発生するごみについて、排出の手助けをしてほしい。 	<p>遺品整理等に伴い発生するごみにつきまして、市の収集、自己搬入のほか、本市の一般廃棄物収集運搬許可業者による対応を実施しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・資源ステーションへの持ち出しは、高齢者には大きな負担であるため、資源全てを各戸収集にしてほしい。 	<p>資源の各戸収集につきましては、保健環境委員や町内会の皆様に掛かる負担の軽減や市民一人ひとりの分別意識への影響などを考慮しながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子・高齢化に伴い、ごみ・資源の排出量の減少や収集業務の人手不足が想定されることから、各戸収集からステーション収集に変更を検討した方が良いと思う。 	<p>各戸収集の品目をステーション収集として排出とすることは、市民の利便性の低下や不適正排出防止の観点から困難であると考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・電池類の一括収集は大変良い取り組みだと思う。 	<p>不燃ごみ等の収集時や処理時に、リチウムイオン電池等が原因の火災・発火事案が急増していたため、混入を防ぐ目的で、種類ごとに出し方が異なっていた電池類の一括収集を令和4年7月から開始しました。今後も誤った分別区分で排出されないよう広報・啓発してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・電池類はセロハンテープ等を貼って絶縁してから排出することになっているが、セロハンテープは粘着力が弱いいため、貼りにくい。 	<p>電極同士が接触すると、ショートして発熱や破裂の恐れがあるため、電気が流れないようにセロハンテープ等を貼っていただいております。</p> <p>なお、セロハンテープを貼って排出することが難しい場合、ガムテープを使用して排出していただいても結構です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・発火性危険物と電池類を同じ収集日にしてほしい。 	<p>発火性危険物・電池類については、車両の空きスペースを利用して収集を行っており、収集日を同一にすると、収集しきれなくなる恐れがあるため、困難と考えております。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・北名古屋工場のような焼却工場を増やしてほしい。 	<p>今後の参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にごみ処理施設が停止する恐れがあるため、余裕が必要である。 	<p>災害時等におけるごみ処理については、名古屋市に複数ある施設で処理するとともに、県内外の他自治体と応援協定を結んでおります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理場について、ごみ量を鑑みると名古屋市近辺が多くなるので、少し距離のあるごみ処理場に持っていくのは効率的とは言えない。 	<p>施設の配置状況にも配慮した施設整備に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・P73に「PFI事業においては、事業スキームのなかで資源化から利活用まで順調に行われており、埋立量削減に大きく貢献している」と記載されているが、この記載では直営工場では順調に行われていないように感じる。 	<p>ご指摘の箇所は、焼却工場の整備における運営体制としてのPFI事業の考え方を述べたものです。</p>

<施策5 快適に住み続けられるまちづくり 20件>

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・国内の製品は海外の製品と比較すると過剰包装であるため、行政として製造メーカーに働きかけてほしい。 	<p>本市が事務局である2R推進実行委員会では、消費者、事業者、行政の協働でリデュース・リユースへとつながる取り組みについて進めております。</p> <p>簡易包装や再生利用しやすい包装・商品といった環境配慮設計など、事業者が行いやすくなるよう、国に対し拡大生産者責任の徹底を要望しておりますが、今後も国によって必要な措置が講じられるよう、引き続き粘り強く要望してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・飲料容器のデポジット制の導入などを国に働きかける必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・法整備による拡大生産者責任の徹底が実現しない原因などを記載すべきである。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・IoT技術を活用し排出状況などに応じてインセンティブを与えれば、分別排出や食品ロスの削減に対する意識醸成につながると思う。 	<p>利便性の向上や業務の効率化などに向け、DXの推進に向けた取り組みを検討してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・IoT技術を活用し、ごみ収集業務を最適化する必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の管理・追跡システムの導入が必要である。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系ごみを有料化することで、リサイクルに興味がない市民にも協力を促すことができる。また、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行にも効果的である。 	<p>ご指摘のように、有料化により、家庭ごみの排出抑制や再生利用の推進など、市民の皆様の意識改革を促す効果が期待されます。</p> <p>一方本市では、容器包装の分別収集などのごみ減量施策を展開して、市民の皆様とごみ減量について協働して行ってきた結果、家庭ごみの有料化を実施することなく、平成10年度から現在に至るまで、約4割の大幅なごみ減量を達成することができました。</p> <p>ごみ減量効果やごみ量の推移、さらには環境負荷の少ない（バイオマスプラスチック等）指定袋の導入に対する課題などを踏まえつつ、他都市の動向も見ながら、有料化について議論をしております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・景観やカラスによる散乱被害の観点から、ごみ・資源は各戸収集ではなく、収集容器によるステーション収集に変更し、高齢者などに対しては個別に排出支援してほしい。 	<p>各戸収集の品目をステーション収集とし、専用の容器による排出とすることは、市民の利便性の低下や容器の管理、不適正排出防止の観点から困難であると考えております。</p> <p>なお、本市では高齢者など資源やごみを所定の排出場所まで持ち出すことが困難な方々を対象に、原則自宅の玄関前に出された資源やごみを市が収集に伺う「なごやか収集」という排出支援を行っております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自販機の設置者に回収ボックスの設置を義務化して積極的に利用できるようにし、市は月一回の各戸回収に変更してほしい。 	<p>自動販売機により飲料を販売する者は、回収容器を設置し、これを適正に管理しなければならないと「空き缶等の散乱の防止に関する条例」で定めております。</p> <p>また、資源の各戸収集につきましては、保健環境委員や町内会の皆様に掛かる負担の軽減や市民一人ひとりの分別意識への影響などを考慮しながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・家電リサイクル法の対象品目は、市がリサイクル料金を負担すれば、不法投棄が減少し、パトロールなどの経費が不要となり、有用な金属を効率的に回収できると思う。 	<p>本市においても、家電製品等の不法投棄には苦慮しているところです。</p> <p>家電リサイクル法については、不法投棄の防止を目的として、国に対して対象品目の要件の見直しも含め、支払方法を前払い制にした上で、対象品目の拡大を検討することを要望しております。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨てを防止するため、テレビCMなど様々な媒体で広報してほしい。 	<p>本市では、「空き缶等の散乱の防止に関する条例」を設けており、市民・来訪者の往来が多く、特に重点的にポイ捨てを防止する必要がある 24 の地域を「美化推進重点区域」として指定し、その区域内でのポイ捨てに 3 万円以下の罰金を課せる旨の規定を定めております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨てを防止するためには、路上禁煙のように罰金が課されることをアピールする必要がある。 	<p>ポイ捨ての広報については、広報なごや、ラジオ、SNS、大型映像装置などの様々な媒体を活用し、広報・啓発を行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨て防止のために観光地などにごみ箱を設置してほしい。 	<p>「公衆ごみ容器」の設置については、まず同条例で、ごみは自分で持ち帰らなければならないと定めております。</p> <p>以前は本市でも「公衆ごみ容器」を設置しており、紙屑等の散乱防止に一定の効果は認められるものの、分別が不十分なごみや家庭からのごみを、あふれるほど入れられてしまい、地元から苦情が出るなど、かえって街の美観を損なうことも多いことから撤去しました。</p> <p>今後も粘り強くポイ捨て防止を訴えてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの吸い殻のポイ捨て防止対策を積極的に進めてほしい。 	<p>本市では、「安心・安全で快適なまちづくりなごや条例」に基づき、道路や公園などでのポイ捨てを禁じるほか、「喫煙者の責務」として歩きたばこをしないこと、喫煙する際はたばこのポイ捨てをしないよう吸い殻入れを携帯することを努力義務として課しております。この「喫煙者の責務」の周知のため、市民・事業者との協働によりポスター掲示などの啓発活動などを実施しているところです。</p> <p>しかし、生活マナーの問題は個人のモラルに負うところが大きく、即効性のある対策は難しいところです。</p> <p>今後も市民・事業者の皆様との協働により、喫煙マナーの向上に、粘り強く取り組み、安心・安全で快適なまちづくりを進めてまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・カラスによる散乱被害対策を推進してほしい。 	<p>カラス被害防止には、ごみとカラスの物理的接触を防ぐことが有効です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・カラスによる散乱被害の防止対策をしてもカラスが学習して効果が無くなるため、効果的な対策を定期的に提供してほしい。 	<p>防鳥ネットを使っても、きちんとごみが覆われていないと、被害が出ることもあります。適正なサイズのネットの購入や、ネットのメンテナンスにより、状況は改善することが、市内における生活ごみのカラス被害調査より認められております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・カラスによる散乱被害を防ぐために、防鳥ネットの利用促進などを行ってほしい。 	<p>適切な防鳥ネットの使い方や、生ごみを新聞紙で包むなど効果のあるカラス対策を、市民の皆様から寄せられた取り組みやすいアイデアも含めて、多くの方に知ってもらえるよう、情報発信してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・カラスによる散乱被害などを防ぐため、可燃ごみとは別に生ごみを出せる場所を作ってほしい。 	<p>生ごみを別途収集することは、収集場所や、その管理方法、収集車両の増加など、課題が多いことから困難であると考えております。</p> <p>なお、カラスから見えないように生ごみを新聞紙等で包むなど、効果が認められる対策を、多くの方に知ってもらえるよう、引き続き情報発信してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・カラスによる散乱被害対策だけでなく、犬や猫によるふん害についても記載してほしい。(2件) 	<p>今後の参考にさせていただきます。</p>

第6章 計画の推進に向けて 2件

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・P80「市民・事業者の役割」をどのように周知していくのか分からない。 	<p>施策を展開する中で、「市民・事業者の役割」を周知してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意識を変えるためには、計画が多くの人目に触れる工夫をすることが必要である。 	

その他 6件

市民意見の概要	市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 計画名に計画期間を入れるなど、計画期間を分かりやすくしてほしい。 	<p>ご意見を踏まえ、本計画の表紙に計画期間を記載しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 和暦と西暦が併記されており、分かりやすい。 	<p>施策を展開する中で、用語解説を記載するなど、市民・事業者の皆様にとって、分かりやすい内容となるよう、努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 現状、課題、改善事項の順に記述した方が理解しやすいと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> フードドライブ、アップサイクルなどのカタカナ語について、分かりやすい説明を記載してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 第5次一般廃棄物処理基本計画から変わった点が分かりにくい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市が行っている良い取り組みが、他の市町村にも広がるようにしてほしい。 	<p>政令指定都市や県内の市町村との会議などにおいて、本市の取り組みを情報発信してまいります。</p>